

——東京マガジンバンクカレッジパートナー通信——

2019/3/29

第 34 号

「東京マガジンバンクカレッジパートナー通信」は、東京都立多摩図書館とカレッジパートナーの皆様の情報共有と交流を図る通信です。

東京マガジンバンクカレッジの事業や雑誌を巡る話題を電子メールでお届けします。

<目次>-----

- 【1】企画展示「ヘイセイ→→→ミライ～平成から未来へ～」が始まりました。
「平成の30年を雑誌で振り返る」コーナーの募集を継続します。
 - 【2】『東京マガジンバンクカレッジ』第5号完成！ 都立図書館ホームページに掲載されました。
 - 【3】最近の雑誌記事から
-

【1】企画展示「ヘイセイ→→→ミライ～平成から未来へ～」が始まりました。

「平成の30年を雑誌で振り返る」コーナーの募集を継続します。

3月22日(金)から、企画展示「ヘイセイ→→→ミライ～平成から未来へ～」が始まりました。
開催期間は、約2か月半、6月10日(月)までです。

この展示では、多様な視点から平成という時代を振り返り、未来を展望することを目指して、創刊誌、映画・テレビ・音楽関係雑誌、コンピュータ関係雑誌等で平成の30年間をたどるほか、様々なジャンルの平成特集号、未来予測特集号など、雑誌約700点、ベストセラー図書約90点を展示しています。

スポーツライター、スポーツジャーナリストでパートナーでもある生島淳氏による「平成のスポーツをマガジンで読む」のコーナーも大変興味深い内容です。3月21日に引退を発表したイチローが編集総監督を務めた『インパクト』（『新潮45』平成12年4月号別冊）も展示しています。

下記URLから展示の案内をご覧ください。そして、是非会場におこしてください。

https://www.library.metro.tokyo.jp/guide/event/exhibition/5195_20190322.html

前号で、皆様の得意なテーマや好きなテーマで、平成を振り返る雑誌をご紹介いただき、展示会場に、平成の30年を雑誌で振り返るパートナーのコーナーを作ることをお知らせしました。

締切は3月31日としましたが、5月末まで募集を継続します。

間もなく新しい元号が発表されます。時代の変わり目の記念として、これぞ平成！と思う雑誌で独自のコーナーを作ってみませんか。

参加しようと思われる方は、下記にご記入の上、このメールに返信してください。

ご参加をお待ちしております！！

◆コーナー名(例:「平成の鉄道を振り返る」)

()

◆展示したい雑誌(10点程度。タイトルでも個別の記事でも結構です。)

()

◆その雑誌を選んだ理由(200字程度)

()

◆コーナーに掲示する名前(本名又はペンネーム)

()

【2】『東京マガジンバンクカレッジ』第5号完成！ 都立図書館ホームページに掲載しました。

東京マガジンバンクカレッジ鉄道セクションワークショップ「中央線が好きだ。を書く」(平成31年1月12日から全3回)の参加者の皆様が作成した記事を一つにまとめたウェブマガジン『東京マガジンバンクカレッジ』第5号が完成しました。

このワークショップでは、沿線情報誌『中央線が好きだ。マガジン』(編集:株式会社交通新聞社、発行:東日本旅客鉄道株式会社八王子支社)の編集長及びライターを講師にお招きし、講義や助言をいただきながら参加者が記事を作成しました。

ワークショップの様子やウェブマガジンは下記 URL からご覧になれます。

中央線を愛する熱い思いが溢れるウェブマガジンを是非ご覧ください。

https://www.library.metro.tokyo.jp/guide/event/seminar/5050_20181114.html

また、ワークショップの紹介記事が『中央線が好きだ。マガジン』第23号(平成31年3月)「中央線 NEO コミュニティ」欄に掲載されました。

『中央線が好きだ。マガジン』は中央線沿線の駅に置かれていますので是非ご覧下さい。下記 URL からご覧になれます。

<https://www.jreast.co.jp/hachioji/ensen/>

【3】最近の雑誌記事から

企画展示「ヘイセイ→→→ミライ ～平成から未来へ～」では、平成を振り返る雑誌とともに、未来の社会を考えるために欠かせないテーマの雑誌も展示しています。

今回はその一部をご紹介します。

■『日本ロボット学会誌:ロボ學』37巻1号 通巻289号 (2019年1月) 日本ロボット学会
特集:ソフトロボティクス

この号から、『日本ロボット学会誌』という堅いタイトルに「ロボ學」という副題がつき、判型や表紙デザインも一新されました。

巻頭には、“ロボットの社会進出が進むにつれ、哲学、心理学、社会学など人文科学系の学問分野が重要になり、ロボットという人工物を介して新たな洞察が生まれると同時にこれまでと異なる

課題も出てくる、「ロボ學」とは、そうした広がりや深まりを明示的に示す言葉である”と副題に込めた思いが記されています。

「ソフトロボティクス」とは、構造的に適度なやわらかさがあり、適切な力加減で動作できるロボットに関する研究を指しますが、20年前に既に同名の特集が組まれているそうです。

では、今特集する意味は何か？「ソフトロボット」や「ソフトロボティクス」の概念の変遷、最新の研究動向を知るためにも是非ご覧ください。

(展示期間終了後は、開架書庫の書架番号「M07」、分類番号「32 技術・工学」の棚にあります。)

■『人工知能:人工知能学会誌』33巻6号 通巻192号 (2018年11月) 人工知能学会

特集: AIと美学・芸術

AI(人工知能)は人間の仕事を奪うのか、日本はAIの開発応用で世界に後れをとっているのではないか、など、様々な言説を耳にしない日はないと言ってよいほど、AIへの関心が高まっています。

本特集のねらいは、AI技術をヒトの創造性そのものに対する問題提起としてとらえ、芸術と芸術の基礎論ともいえる美学の観点から、新たな視点をもたらすこと、とされています。本号に続く号でも、「料理情報の知的処理」「道徳判断の自動化をめぐる問題:規範の選択と協力の進化」など、一見、AIとどういう関係があるの?と思われるテーマを取り上げています。

難解な点もありますが、最新の知見を垣間見る楽しさも味わえるのではないのでしょうか。

(展示期間終了後は、開架の書架番号「A04」、分類番号「02 情報」の棚にあります。)

—編集後記—

今年度最後の号をお届けします。

3月・4月は別れと出会いの季節、一抹の寂しさとともに新しい出会いへの期待に心が躍ります。

4月1日には新しい元号が発表される予定です。平成から新しい時代に続く来年度も、東京マガジンバンクカレッジの活動を一層充実させるため、担当一同精一杯頑張ります。

新年度もパートナーの皆様のお力添えをいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

当メールマガジンに対するご意見・ご感想は下記までお寄せください。

—編集・発行—

東京都立多摩図書館東京マガジンバンクカレッジ担当

〒185-8520 国分寺市泉町2-2-26

TEL:042-359-4020

E-Mail: S9000044@section.metro.tokyo.jp

ホームページ: <https://www.library.metro.tokyo.jp>
